

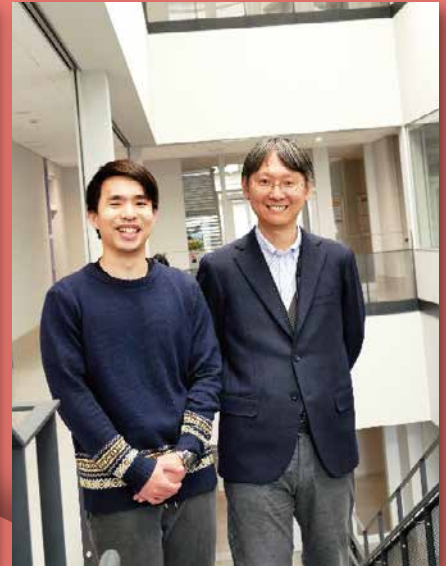
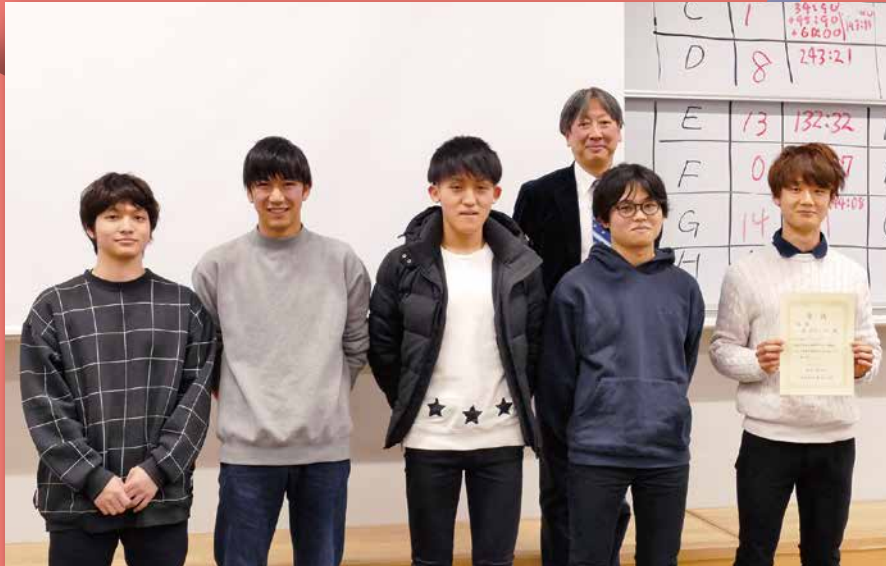
ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

豊田工業大学広報誌

vol. 106

MAY 2020



CONTENTS

2019年度 卒業・修了祝辞	02~05
就職活動体験記	06~08
2019年度卒業・修了生の進路状況	09
新入生歓迎の言葉	10
2020年度 入試結果	10
学生の活躍	11
NEWS FILE	12, 13
受賞	14
人事紹介	15
新キャンパスNEWS	16

令和元年度卒業生・修了生の皆様 ご卒業、ご修了 おめでとうございます。

振り返れば、きっと、
「自信」が見えてきます。

豊田工業大学 学長
保立 和夫



豊田工業大学から、本年度は、学部卒業生93名、大学院修士課程修了生35名、そして博士課程修了生1名が、人生の新たなステージへと巣立ってゆかれます。おめでとうございます。本来は、卒業式・修了式においてお祝いの言葉を直接お伝えできる筈でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら、式の開催を取り止めざるを得ませんでした。代わってここに、祝辞をお届け致します。

卒業生・修了生の皆さんには、それぞれが選択された新たなステージでも、大いにご活躍をいただきたいと願っています。その活動において、本学でのさまざまな経験が、きっと役に立ってくれると思います。卒業・修了にあたって、皆さんは勿論、将来への大きな期待を抱いておられる訳ですが、一方で多少は不安な気持ちもお持ちでしょう。大学での学びは、幅と厚みのある極めて大きな学術体系への挑戦でしたから、学修と研究の両面において、当然ながら、ご苦労もなされたことでしょう。しかし、そのご苦労自体が、学修・研究面で得られた成果とともに、皆さんの「自信」の源にもなっていると思います。

成果は苦労の後にやって来る。これが通例です。ですから、今後も苦労を厭わずにチャレンジ続けていただきたいと思えます。きっと未来は拓けます。卒論、修論、博論での経験が、そうであったように。将来に向かっての「自信」などは、もともと存在しません。なぜなら、これから起こることは、当然、全てが不確定なのですから。今後チャレンジする際にも、本学での「成果は苦労の後にやって来た」経験を、思い出してください。将来に向かっての「自信」は存在しませんが、人生を振り返ってみると、そこには苦労の思い出と一緒に「自信」が見えてきて、私たちがしっかりと

後押ししてくれる筈です。

学長に就任して半年が経ちました。この間、機会あるごとに「理解するとは『帰結に対応した理由に納得する』ことで、『帰結の暗記は理解ではありません』と申ししてきました。つまり、「自ら論理的に考える」学修態度によって、帰結に対応した理由を手繰って欲しいと思っています。独創研究の遂行にもこの態度が必要です。実は、これからさまざまな場面で社会に貢献してゆく上でも、「自ら論理的に考える」ことが大切です。皆さんは、大学での学修と研究を通して、この社会人として大切な態度を習得して来たのです。一方で、物理学や数学を基盤にして「自ら論理的に考える」ことは、それほど難しくはないようです。物理学や数学での論理は明快だからです。しかし、社会に貢献してゆくさまざまな場面では、論理的に考える拠り所が相対的である場合が多くなります。そんなときは、結局、自らの「心」に拠り所を求めなければなりません。つまり、「心」を磨き続ける努力が必要です。誠実さ、正義感、優しさ、強さ、感謝の気持ち、…。大変ですね。沢山経験し勉強して、沢山考えないとなりませんね。私はまだまだ修行が足りていません。

今年の夏にはキャンパスのリニューアルが完成します。秋の天樹祭の際に、盛大な同窓会が開催できると嬉しいと思っています。そのときは、是非、皆さんにもお集まりいただきたいと思えます。

さて、有名な言葉をひとつ。「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も」です。この言葉には続きがありますね。「成らぬは人の為さぬなりけり」。皆さんのご健康と、そしてご健闘をお祈り致します。あらためまして、ご卒業、ご修了おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の国内での感染拡大に収束の兆しが見られないことから、2020年3月18日に挙行が予定されていた卒業式・修了式が中止となった。

式典で祝辞を述べる予定であった、本学 学長並びに理事長、また、お招きする予定であった来賓の方々の代表として、トヨタ自動車株式会社 取締役 副社長* 寺師茂樹氏から届いたメッセージを掲載する。

工学部卒業生は93名、大学院工学研究科(修士課程)修了生は35名(ダブル・ディグリー留學生3名を含む)、博士(工学)学位取得者は1名の計129名。

*役職は2020年3月時点

豊田工業大学 令和元年度卒業生・修了生の 皆さんへ

学校法人トヨタ学園 理事長
増田 義彦



豊田工業大学の学部を卒業された皆さん、大学院の修士課程・博士課程を修了された皆さん、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。今日、晴れの日を迎えることができましたのは、皆さん一人一人の弛まぬ努力の賜物であります。心から敬意を表したいと思います。また、それと同時に、長い間ご指導をいただいた先生方や諸先輩、さらには、派遣企業の皆様、そして保護者の方など、本当にたくさんの方々に支えられて、卒業を迎えることができたということへの感謝の気持ちを忘れていただきたいと思えます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により卒業・修了式の開催が中止となり、その後に準備いただいていた謝恩会も見送りとなり、残念ながら直接に皆さんとお目にかかってお話をする機会が無くなってしまいました。今回は、この書面で祝いの言葉を皆さんにお贈りします。

豊田工業大学の建学の理念は「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」です。この理念のもと、産業分野の発展に役立つ基礎力、実践力、創造力を、皆さんはこの大学で学んできました。これからの時代に対応できる地力が育っていると確信しています。漢字で、「士(サムライ)」の下に「心」を置くと「志」という字になります。土型教育プログラムを修了し、学士、修士、博士となる皆さんには、ぜひ「時代に先んずる」という「志」を強く持って、社会に大きく羽ばたいていってください。

これからの時代は、人の果たす役割がこれまで以上に重要になってきます。今後ますます機械の知能化が進み、いろいろなことを人に代わって処理してくれるようになり、また、世界中から多くの情報を容易に手に入れられるなど便利な社会が勢いを増して広がっていくと思われます。その一方で、何が社会に役立つことなのか、価値あることなのか、また、手に入れた情報は正しいものなのかなど、人がそれぞれ自分で考え、判断する力の重要性が高まってきます。人と人との関わりを大切に、自分で考え判断する力の切磋琢磨をこれからの環境のなかでも続けていただきたいと思えます。

今年卒業される皆さんが在学されている間は、常に工事中であった新キャンパスへの改装工事が、今年の7月の中央棟・ホール完成で完了となりますので、ぜひ一度お越しください。社会に出てからもこの学び舎で過ごした仲間たちとの絆を大切に、豊田工業大学を折に触れ振り返っていただけるとありがたいです。

最後になりますが、何事にあたる際にも皆さんの体と心の健康がその基盤です。いろいろな困難や苦難に対処するときも健康第一をモットーとして乗り切ってください。卒業生の皆さんが、世のため人のために幅広く活躍していただくことを祈念して、私からの祝いのメッセージとします。

未来に向かって 襷をつなぐ

トヨタ自動車株式会社
取締役 副社長*
寺師 茂樹



豊田工業大学の学生の皆さん、ご卒業、ご修了、誠にありがとうございます。また、ご家族の方々、先生方、本当におめでとうございます。令和になって初めてという特別な年に、卒業・修了を迎える皆さんに祝辞を贈る機会をいただけて、とても光栄に思い、感謝しています。

卒業・修了を迎えられる皆さんは、これから社会に出たり、進学されたり、新しいことに挑戦されると思います。ワクワク、ドキドキ、夢でいっぱいでしょうか？もちろん夢があると思いますが、同じくらい、失敗するのではないかと、社会で通用しないのではないかと、不安も感じられていると思います。

私の知っているトヨタ自動車のある新入社員の例をお話しします。彼は、入社して実験部に配属されたのですが、入社から10年間、失敗の連続で先輩に叱られ続けました。例えば、道の両脇にマイクを置き、クルマの走行騒音を測定する実験を行った時のことです。道の中央をまっすぐ一定の速度で走らなくてはいけなかったのですが、彼は、何度やっても真っ直ぐ走れず、一定速度でも走れず、いつも左の音が大きくて、さらに音が大きくなったり小さくなったり。運転がとても下手だったのです。加えて整理整頓もできず、いつも実験場所は部品が散乱、先輩から「そういうところから直さないとダメだ」と頻りに叱られていました。

それでも若い時にたくさん先輩に叱られたおかげで、その彼は、現在、トヨタ自動車の副社長を務めていて、今こうして、豊田工業大学の卒業・修了生に祝辞を贈っています。私が皆さんに伝えたいのは、「襷をつなごう」ということです。何を言っているのかと思われたかもしれません。駅伝大会では選手が自分のためだけではなく、前の区間を走った選手の想いを、次に走る選手につなぐために走り続けます。皆さんにお伝えしたいのは、既に皆さんそれぞれが「襷」を受け取っていることに気づき、次につないでほしいということです。

私は2019年から、つくば市にある宇宙航空研究開発機構(JAXA)様と一緒に月を走るクルマを開発しています。自動車メーカーに就職した私が宇宙に関連する仕事をするなんて全く予想していませんでした。人生何が起るかわかりません。初め

てのことばかりでワクワク、ドキドキしています。

月を走るクルマは、二酸化炭素が全く出ない環境に優しいクルマにしようと思っています。これは燃料電池を使うことで実現できます。このクルマは水素と酸素の化学反応で生じた電気でもーターを駆動して走り、排出物は水だけという、究極のエコカーです。

2014年に初めて燃料電池車MIRAIを世に出しました。燃料電池車をお客様に使っていただける性能を達成するまでには、たくさんの苦労がありました。MIRAIの前のモデルでは、氷点下では水が凍ってしまい、クルマを動かせなくなるという問題がありました。水が凍るのは当たり前だろうと今なら思いますが、当時はどうしよう、クルマが動かない、と毎日困果てていました。

ここからエンジニア達はがんばりました。ミクロな観察を行って、氷点下でも少しの間であれば、水が凍らずに液体のままであることが分かったのです。そこで、この短い時間の間に、水素と酸素の化学反応自体から出る熱を使って、燃料電池の温度を0℃以上に暖めて水が凍らないようにしました。その対策が当たり、-30℃でも動くようになったのです。

ここでの失敗と苦労があったからこそ、月を走るクルマに挑戦することができています。

もっと言えば、燃料電池車に挑戦した背景には、ハイブリッド車開発の失敗と成功がありました。今から55年前の1965年、トヨタで初めてハイブリッド車の開発が始まりました。当時は省エネルギー、軽量、コンパクトかつ、低エミッションという優れた特性を持つガスタービン・エンジンに着目し、ガスタービンとバッテリーのハイブリッドシステムの開発を行っていました。しかし、同時に開発すべき部品が多く、このシステムの開発は1983年に終了せざるを得ませんでした。

私たちの先輩はここで諦めませんでした。環境問題を解決するためには、化石燃料を減らさなければならないという使命感がありました。そしてトヨタの総力を挙げて開発したハイブリッド車がありました。そしてトヨタの総力を挙げて開発したハイブリッド車がありました。初めてプリウスを発売したのは今から23年前の1997年のことでした。このクルマも動かすまで、たくさんの苦労がありました。試作車を初めて動かすまでに49日間もかかったので

す。最初はモーターで5m動いて、エンジンがかからず止まり、いろいろ直してエンジンはかかるようになって、モーターとエンジン両方で動かそうとすると止まる。それでも少しずつ良くなっていき、ギクシャクしながらでも500m走りました。

このような苦労の末に誕生したクルマは、ラテン語で“先駆け”を意味するプリウスの名にふさわしく、化石燃料依存から脱しようとする21世紀のクルマ像の先駆けとなったと自負しています。

このプリウスの開発責任者は、新入社員の私を叱り続け、諦めずに教え導いてくれた先輩であり、今でも上司です。

最初に私は今とてもワクワクしていると言いました。

今ワクワクできるのは、ガスタービン・ハイブリッド、プリウス、MIRAIを開発する時に、失敗や苦労を恐れず、そこから学ぶ姿勢を大切に努力を続けて、次の時代に襷をつないできた先輩方がいたからです。たくさん失敗する私を先輩が見捨てなかったのは、私が知的好奇心を失わずに、全力でクルマの開発に取り組み続ける姿勢を認めてくれたからだだと思います。

これまでチャレンジ続けてくれた先輩たちには感謝しかありません。

これから皆さんが経験するであろう失敗や苦労は、過去の先輩がこれからの幸せのために繋いでくれた襷であり、皆さんが次の世代に繋ぐべき襷です。

苦しい時に、人は自分一人だと思ひ込みがちですが、そんな時にはぜひこの話を思い返してほしい。皆さんは過去も今も未来も誰かとつながっています。一人ではありません。

皆さんは豊田工業大学で次世代のモノづくりをリードする、「士(サムライ)型」の実践的で先導的な技術者・研究者となる教育を受けられたと聞いています。令和時代の新しい技術を支える素晴らしい技術者・開発者になられることでしょう。

皆さんがこれから出会う人たちにも感謝の気持ちを忘れず、努力を続けていたら周りの人たちが助けてくれると思います。好きなことは失敗や苦労をしてもすぐに諦めずに、努力を続ければ道は拓けます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今回皆さんに直接祝辞を贈ることは叶いませんでした。社会人としての門出である華々しいこの時に、今まで日本が経験したことのない問題に直面し、不安も大きいかもしれません。こんな時こそ必要以上に感染を恐れ、人を批判したりするのは止めて、優しい気持ちを大切にしましょう。自分が社会のためにどのように役に立てるかを考え、行動し、皆で乗り越えていきましょう。

卒業・修了までを支えてくれた皆さんの周りの方々に感謝の気持ちを伝えてください。そして、これから一緒に未来に向かって襷をつないでいきましょう。

※役職は2020年3月時点

Congratulations ～卒業おめでとう～

外国政府派遣留学生特別選抜で2016年学部入学

トンプラムーン ボンサシット
Thongpramoon Pongsasit 君
設計工学研究室/TRIAM UDOM SUKSA School
[タイ・バンコク]出身



指導教員小林正和准教授(右)と

2016年に外国政府派遣留学生として本学に入学したトンプラムーン君は、この制度で入学した本学初の学部卒業生である。タイの高校に在学中、水素自動車に興味を持ち、日本の大学を目指すことに。1年半の日本語予備教育を受け、本学の留学生特別選抜を受験し、入学を決めた。在学中は、一般学生と同じカリキュラムで4年間学び、設計工学研究室で「GANsを用いたユーザベースの意匠設計支援」に関する研究を行った。「入学当初、手書きで書く日本語のレポートは特に大変だった。友達をサポートがなかったら乗り越えること

ができない困難がいくつもあった」と話す。一番の思い出は寮での生活。一般学生と交流を深めた。「寮生活は楽しいこと、つらいことがたくさんありました。今ではどれもいい思い出です」と、今は取り壊されてしまった旧久方寮での生活を懐かしそうに語った。卒業後はタイに戻り、オーストラリアの企業「YPB Group International Co. Ltd」で就業予定。

卒業・修了生に聞く！

就職活動体験記 *Check*

学部



就職活動とは
「自分史回顧」

寺尾 見識妙さん

出身校 [県]：鈴鹿高等学校 (6年制) [三重県]
研究室：情報通信研究室
研究テーマ：サイバー攻撃検知のための
敵対的生成ネットワークの応用

内定先

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社

さまざまな経験を振り返り、自分と向き合う

モータや回路、半導体などのハードウェアについて理解を深め、その後、自分が興味を持っていたソフトウェアについて学んだことから、両者を総合的に取り扱う、アイシン・エイ・ダブリュのセキュリティ部門でその経験を生かしたいと思い、同社を志望しました。

就職活動とは、興味を持っていることや社会に出てやりたいことは何なのか、大学で経験したことを通して自己分析することの繰り返しであったように思います。

例えば、「大学祭を盛り上げたい」という気持ちから、大学祭の広報としてポスター作りを行い、デザインする楽しみを知りました。また、自分の心身を守るために始めた、居合道部の活動では、「本当の強さ」とはどういうことであるかを考えました。また、海外連携大学の一つであるチェコ・パルドゥビツェ大学のサマースクールに参加し、自分の専門分野だけではなく、幅広い知識がないと、世界の人たちと地球規模の問題について対等に議論することができないということを実感しました。

就職活動は、自分をより深く知る良い機会だと考えます。そのためにもできるだけ多くのことにチャレンジし、経験し感じることが自分でも気づけなかった一面を知るカギとなってくると思います。

More Check

居合道部の部長として、週に1度、大学の武道場で稽古に励む。部員数が多くなく、初心者ばかりで部の存続に苦労することもあったが、稽古の凜とした空気の中、後輩に指導することで自らの心・技・体も磨いていく。



修士



就職活動とは
イコカマツヤ
(松屋に行くようなノリで気楽に行こう、という意味)

仲下 慧さん

出身校 [県]：済美平成中等教育学校 [愛媛県]
研究室：制御システム研究室
研究テーマ：ピアツーピア電力取引最適化

内定先

株式会社NTTドコモ

世の中に新たな価値を生み出したい

以前から中古のパソコンやスマホなどを安く買って修理して使うことが好きでした。さらに、学部時代、電子情報分野を主専攻に、機械システム分野を副専攻として二つの分野を学んだ経験を生かしたいということから通信業界を中心に就職活動を行いました。

内定をいただいたNTTドコモは、顧客数も多く、幅広い事業展開や5GやIoTなどの最先端技術に魅力を感じ、同社の募集するインターンシップに応募し、社内の雰囲気などを体験しました。

数人のグループを組み、課題を発見し、通信技術やAIの技術を使って新たなビジネスを創生するテーマでしたが、そこでは特定の知識だけでは到底議論することができず、複数分野を横断的に学んだ経験、さまざまな人と関わることで磨かれたコミュニケーション能力を発揮することで、グループの好成績に貢献できました。また、その経験を通じて、採用面接では自分のやりたいことを明確に面接官に伝えることができたと思います。

NTTドコモ入社後は、通信を活用した便利なサービスの創出に挑戦したいと考えています。幅広く学んだ経験を活かし、それに専門技術をかけ合わせ、世の中に役立つ、独自性の高い新たなサービスを生み出したいと思っています。

More Check

寮生活では上級生委員サポーターとして、運営に携わった。新たなルール作りなどの際、問題が立ちはだかり、思い通りにいかないことも多々。メンバーをまとめ、乗り越えることで、自らも成長することができた。



修士



就職活動とは
「発見」

高橋 和美さん

出身校 [県]：中京大学附属中京高等学校 [愛知県]
研究室：表面科学研究室
研究テーマ：金属クラスター触媒を用いた多層グラフェンナノリボンの作製と評価

内定先

株式会社デンソー

研究に付随するプロセスすべてが学びの一環

“できること”と“やりたいこと”が交わる、デンソーの材料研究に関する部門に魅力を感じ、同社を志望しました。

「何ができる」「何がしたい」と自分と真剣に向き合うきっかけとなったのが、同社でのインターンシップでした。

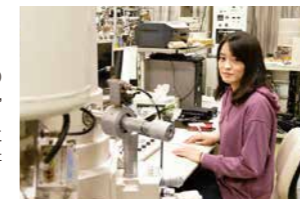
製品の製造過程においてベースとなる、知識・技能を学ぶ授業「工学リテラシー」などを通じ、自動車業界を身近に感じ興味もありましたが、インターンシップで材料研究の現場に立ち、将来的にはそこに身を置きたいと感じ、進みたい方向が明確になりました。材料開発の研究現場において、成果を得るということを重視するのはもちろんですが、分析装置を使いこなし、材料の特性を調べるなど一つ一つのプロセスにおいても学べるが多く、自らの成長には欠かせないと気づいたからです。

また、学部3年生の後期に、豊田中央研究所で学外実習を行い、研究者の方に研究を仕事とするにあたっての心構え、学生の時にどのように勉強すべきか教えていただき、自分の目指す方向を考えることができました。

就職活動中はたくさんの情報が入ってきます。実際に体験することで“自分の基準”を持つことができます。それを頼りに選別する必要があるように思います。

More Check

研究室では、少人数であることから、さまざまな分析装置を比較的自由度の高い環境で使用できるため、研究の“技”を磨くことができた。その環境でじっくりと研究を重ね、学会や学外での勉強会で研究結果を発信し、自信につなげていった。



学部



就職活動とは
目標達成への
第一歩

田代 昂之さん

出身校 [県]：志学館高等部 [鹿児島県]
研究室：機械創成研究室
研究テーマ：選択的放電固化による積層造形法における放電エネルギー低減の試み

内定先

日本エアコンピューター株式会社

自分がやりたいことのその先に・・・

「航空機」に携われる企業で働きたいという思いから、地元・鹿児島を地盤として、幼少の頃より縁があり、航空業界に憧れを抱いたきっかけの会社でもある日本エアコンピューターより、総合職技術系として内定をいただきました。

面接ではサークル活動の鳥人間コンテストでの経験が自己PRの中心でした。幼い頃から出場することが夢だったこの大会に、自分が設計し、操縦する機体で琵琶湖を飛ぶことに至るエピソードを面接官は、興味深く聞いてくれました。また、出場に必要な書類審査にあたり、OBの方々に書き方のアドバイスをいただいたことが、就職活動で履歴書作成の際にとっても役立ちました。

本学には日常的にモノづくりの機会があります。設備も充実していて、的確なアドバイスをくれる指導員の方々もいらっしゃいます。また、アクティブチャレンジ制度による金銭的援助もあり、自由にモノづくりをすることができます。モノづくりは達成感を味わわせてくれると同時に、いろいろな人とつながる機会を与えてくれます。是非、豊田工大でいろいろなことにチャレンジしてください！

More Check

2017年は4位という好成績、2019年は悪天候の中で残念な結果に。いつの日か自身で社会人チームを作り、自分の思いのすべてを盛り込んだ機体で琵琶湖を飛ぶ夢を胸に秘す。



卒業・修了生に聞く！
就職活動体験記 *Check*

学部



就職活動とは
人脈

柳瀬 俊哉 さん

出身校[県]: 浜松日体高等学校[静岡県]
研究室: 流体工学研究室
研究テーマ: シーディングを必要としない非接触気流速度・状態量計測法

内定先

トヨタ自動車株式会社

「なぜ」を根拠に突き詰めて考える

幼いころから洗練されたデザインのスポーツカーが好きで、自動車に関する企業の中でも、完成車メーカーへの就職を希望していました。そこで設計や開発などに携わることができれば、と当初は漠然と考えていました。

しかし、内定先となったトヨタ自動車での5週間の学外実習がきっかけとなり、生産技術という、製品などを効率よく量産できるように管理する業務への興味が強まりました。

実習では指導担当の社員と共に、現場で働く方々とのコミュニケーションを通して、どのように問題解決したらよいかを考え、改善案を導き出すという内容で、カムシャフト製造ラインの可動率向上に取り組まれました。

この経験を通し、生産技術の仕事は、現場で働く方々と密にコミュニケーションを取り、状況や問題を把握し、「なぜか」という根拠をベースに真因を追求するという基本姿勢が重要であると体感しました。

大学では、シミュレーションに加え、実際に手を動かし実験を行うことで、自身のスキルアップにつながるということを学びました。生産技術の職場に配属となった際は、大学で培った知識や経験を活かし、生産ラインの効率化を図ると同時に、高品質な製品づくりに挑戦していきたいです。

More Check

学外実習で人とつながることの大切さ、楽しさを実感した。また、ビーチラグビー同好会の活動において、社会人の方や学外の方との交流を通じ、社会に出て生きていく上で必要な会話を向上させることができた。



修士



就職活動とは
大学生生活で得たすべてで臨む総力戦

横井 貴敏 さん

出身校[県]: 一宮高等学校[愛知県]
研究室: 材料プロセス研究室
研究テーマ: 噴流めっきプロセスを用いた三次元形状創成

内定先

株式会社豊田自動織機

社会の発展にモノづくりで貢献したい

豊田自動織機でモノづくりを通して社会の役に立ちたいと考え、同社を志望しました。大学入学時、豊田佐吉翁について学んだ際、母親の仕事が少しでも楽しようと画期的な織機を発明したという、「誰かのために」を第一とする佐吉翁の姿勢に感銘を受けたことがきっかけです。

昔からモノづくりが好きだったこともあり、学部1年次の学外実習でトヨタ自動車の木工技師の方の技術を目にし、「自らの手で何かを一から作り出したい」と強く思い、その後、欲しいと思ったものをすぐ形にできる3Dプリンタに興味を持ち、趣味となりました。そして、修士の研究では3Dプリンタに関する知識を活用し、新規で自作した実験装置を使って、低コストで行う金属3Dプリンタの実現に向けた研究に取り組まれました。

また、学部3年次の学外実習では、治具の設計と製作を行い、実際のラインで使用し、評価を行う業務において、最終段階で設計ミスに気付いた、ということがありました。その際、指導員よりの確かなアドバイスをいただき、当初設計したものより良いものを作ることができました。このように失敗をアイデアで乗り切り、無駄にすることなくさらに良いものを生み出すことのできる技術者になりたいと思っています。

More Check

修士海外学外実習はドイツ。問題に直面した時、海外の研究員の、今までのやり方に拘らず、アイデアを練り出し、柔軟に対応する姿勢に触れ、研究者としてフレキシブルに、多角的に思考する必要性を学んだ。



2019年度卒業・修了生の進路状況

就職決定率 **100%達成**
(開学以来 100%)

第一志望への就職率 **84%**

卒業・修了生の進路(就職は内定状況)

	学部			修士課程 ^(※2)			博士後期課程		
	社会人	一般 ^(※1)	留学生	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生 ^(※3)
卒業・修了	8(4)	84(80)	1(0)	0(3)	32(38)	3(6)		0(1)	1(1)
内訳	企業復帰	8(4)		0(3)					
	就職		32(23)	1(0)		30(36)		0(1)	1(1)
	進学		51(57)			2(2)			
	その他		1(0)				3(6)		
計	8(4)	84(80)	1(0)	0(3)	32(38)	3(6)		0(1)	1(1)
		93(84)			35(47)			1(2)	

※1: 学部卒業者のうち2名(一般・就職)は9月に卒業済み ※2: 修士課程修了者のうち留学生2名は9月に修了済み
※3: 博士後期課程修了者のうち留学生1名は9月に満了後、学位取得 ()は昨年実績人数

一般学生の就職先一覧

(人数順、五十音順、★新規)

(名)

学部(33名)		
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	2	
アイシン精機株式会社	2	
株式会社ジェイテクト	2	
株式会社トヨタシステムズ	2	
トヨタ自動車株式会社	2	
トヨタ車体株式会社	2	
愛三工業株式会社	1	
小島プレス工業株式会社	1	
ソニーグローバルM&O株式会社	1	
ダイキン工業株式会社	1	
TIS株式会社	1	
株式会社東海理化	1	
豊田合成株式会社	1	
トヨタ自動車東日本株式会社	1	
株式会社豊田自動織機	1	
株式会社豊田自動織機ITソリューションズ★	1	
トヨタ紡織株式会社	1	
株式会社ニコン	1	
日本エアコミュニケーション株式会社★	1	
株式会社ビー・ネットワークソリューションズ★	1	
株式会社ヒップ	1	
フジオセックス株式会社	1	
株式会社POL★	1	
三井倉庫ホールディングス株式会社★	1	
三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社	1	
公務員(岐阜市役所)★	1	
YPB Group International Co.Ltd(タイ)★	1	

修士(30名)		
アイシン精機株式会社	3	
株式会社デンソー	3	
豊田合成株式会社	2	
トヨタ自動車株式会社	2	
三菱電機株式会社	2	
株式会社IHI	1	
愛知製鋼株式会社	1	
朝日インテック株式会社★	1	
株式会社NTTDocomo★	1	
キオクシア株式会社(旧東芝メモリ)	1	
株式会社ジェイテクト	1	
株式会社資生堂	1	
スズキ株式会社	1	
太平洋工業株式会社	1	
株式会社デンソークリエイト	1	
株式会社東海理化	1	
東洋合成工業株式会社★	1	
株式会社豊田自動織機	1	
日本電産株式会社★	1	
日本放送協会(NHK)	1	
三菱日立パワーシステムズ株式会社★	1	
三菱マテリアル株式会社	1	
株式会社村田製作所★	1	

参考 学部の副専攻分野 認定状況 (名)

認定状況 (主専攻分野を除く)			
認定状況	2分野認定	1分野認定	
所屬分野	機械システム	0名	11名
	電子情報	0名	7名
	物質工学	1名	2名
	計	1名	20名

参考 一般学生の就職先企業 累計上位(学部・修士 1995年~)

(名)

トヨタ自動車株式会社	92	株式会社東海理化	25
アイシン精機株式会社	62	トヨタ車体株式会社	22
株式会社デンソー	60	ソニーグローバルM&O株式会社	16
株式会社豊田自動織機	56	株式会社アドヴィックス	15
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	51	株式会社トヨタシステムズ	15
矢崎総業株式会社	37	愛三工業株式会社	14
本田技研工業株式会社	36	ダイキン工業株式会社	13
三菱電機株式会社	31	ダイハツ工業株式会社	13
株式会社ジェイテクト	28	パナソニック株式会社	13
豊田合成株式会社	27	フタバ産業株式会社	13
トヨタ紡織株式会社	25	住友電気工業株式会社	12

企業名	キヤノン株式会社	11
	小島プレス工業株式会社	11
	スズキ株式会社	11
	日野自動車株式会社	11
	株式会社協豊製作所	10
	トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	10
	日本精工株式会社	9

| 新入生歓迎の言葉

新入生の皆さんをお迎えし、
心から歓迎の意を表します

豊田工業大学 学長
保立 和夫



豊田工業大学へご入学・ご進学なさった皆さん、おめでとうございます。皆さんを本学にお迎えできて、大変に嬉しく思っています。

「工学」はモノづくりのための「学術」です。航空機、通信ネットワーク、光ファイバ。これらは工学の賜物ですが、その背後には、流体力学、情報理論、波動光学といった基盤的学術が構えています。さらにその根元には、数学、物理学、化学といった基礎的学術が控えています。

これら基礎的学術は、宇宙論や素粒子論などの「理学」にも通じますが、「理学」と「工学」には少々違いがあります。「工学」には「成果を社会で活用して欲しい」という「意思」が内包されているのです。「理学は真理と語らい、工学は社会と語らう」という言葉を作りました。学術に裏打ちされたモノづくりは、想像を遥かに超えた機能・性能をも実現します。工学を操って、「えっ、そんなこともできるの!」と驚いていただける「モノづくり」に挑戦して欲しいのです。

大学では、学術分野を束ねた学術体系を学びます。その学修

にあたっては、学術的な結論に対応した理由を手繰り続けていただきたいと思います。これは「自ら論理的に考える」という学修態度です。研究にも同じ態度が要求されます。大学の活動では、学修と研究の両面で、「自ら論理的に考える」態度が重要で、これによって「論理的な思考力と発言力」を鍛えているのです。

この力は、やがて社会人として社会に貢献するさまざまな場面で絶大な役割を果たす「汎用力」となります。つまり、「学修」と「研究」は、そのためにだけあるのではなく、人生の推進力を鍛えてくれるのです。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中での新学期となりました。遠隔講義となり不自由もお掛け致しますが、教職員一丸となって効果的な学修の実現に努力しています。皆さんのご協力をお願い致します。

私たち豊田工業大学の仲間全員で、地球の一員としての自覚を持ち、本感染症の撲滅に向け、日々、責任ある行動を取って欲しいと願っています。

溢れるインスピレーション、アイデア、 オリジナリティを表現しよう

※学年は受賞時点

大学内を飛び出し、学外で行われたさまざまなコンペティションに自主的に応募した学生の活躍を紹介する。豊かに育まれた創造性は活躍できる場所を限定せず、分野を問わずさまざまなステージで発揮できるようだ。

Report 1 第17回キャンパスベンチャーグランプリ 中部大会で特別賞受賞

多田太隆君(修士2年[設計工学研究室]/名古屋大学教育学部附属高等学校[愛知県]出身)が第17回キャンパスベンチャーグランプリ中部大会に出場し、名古屋商工会議所会頭賞を受賞した。キャンパスベンチャーグランプリは1999年に大阪で開催したのが始まりで、現在、全国8地域で展開され、広く「学生起業家の登竜門」として知られている。多田君はECサイトに同時に出品ができるサービス「多数同時一括出品サービス“ヨコテン”」の提案でエントリー。中部地区の大学、専門学校から応募があったビジネスプラン123件の中から、最終選考に20件が進み、そのうち9件が大賞・特別賞などを受賞。“ヨコテン”は見事、その1件に選ばれ、1月30日に表彰式が行われた。



Report 2 「オックスフォード・ビッグ・リード・コンテスト 2019」 本学学生が優秀賞、佳作に選出



オックスフォード大学出版局が主催する読書コンテストで、高校生～大学生部門 フィクション部門で和井内琴理さん(学部2年/掛川西高等学校[静岡県]出身)が優秀賞、杉本悠(学部2年/明和高等学校[愛知県]出身)さんが佳作に選ばれた。

ビッグ・リードとは、指定された英語図書1冊を選び、読んだ本についての感想や薦めたい点などを手書きの英文やイラストでポスターにまとめた作品を募るコンテストで、今年の応募総数は766作品、最優秀賞8作品、優秀賞4作品、佳作24作品が選出された。

優秀賞に選ばれた和井内さんは、世界中から集められた感動的な短編8話を収録した「Cries from the Heart」を、杉本さんはエドガー・アラン・ポーの短編推理小説「The Murders in the Rue Morgue(邦題:モルグ街の殺人)」をそれぞれ題材を選び、この本の見どころをポスターに表現した。

Report 3 SDGs探究AWARDS2019 学生部門で最優秀賞受賞

一般社団法人 未来教育推進機構が主催、大阪府などが後援するSDGs探究AWARDSは、SDGsの認知向上、2025年国際博覧会開催の機運醸成を目的とし、世界にあるさまざまな問題と向き合い、解決策を考え、その答えや活動を作品に表現し出品する。2019年は総数945件のエントリーがあった。その中で、飯塚叶さん(学部3年/清水東高等学校[静岡県]出身)は、学生部門で最優秀賞を受賞。トヨタ自動車の社内有志団体であるMONO Creator's Labの皆さんとトヨタ女性技術者育成基金の奨学生の中から選抜され、構成される他大学学生とチームを組み、「超小型モビリティ」に着目し提案。移動手段としてのモビリティは個性の発揮がしづらい欠点を持つが、ファッションとコネクストし、さまざまなカスタマイズを楽しめる3種類のモビリティを展開。「移動をもっと楽しくしたい!」をテーマに作品を作り上げた。また、SDGsの17のターゲットのうち、「11. 住み続けられるまちづくりを」と「12. つくる責任 つかう責任」に関連があるこの作品は、さらに、車いすの方がファッションを楽しむツールにするなど、引き続き幅広い分野への応用を目指している。



2020年度入学試験結果

		入試区分	入学定員	募集人員	志願者	合格者	入学者
工学部	一般選抜	90	90	70	623	382	103
	専門高校特別選抜(公募制推薦)			若干	4	3	
	外国政府派遣留学生特別選抜			若干	0	0	
	社会人特別選抜(内編入学試験)			20(若干)	19(0)	15(0)	
	高等専門学校卒業予定者を対象とする3年次編入学試験			若干	14	13	
大学院修士課程	一般選抜	45	45	55	55	49	50
	学部3年次学生を対象とする特別選抜			0	0	0	
	社会人特別選抜			0	0	0	
	ダブルディグリー留学生入学資格審査			若干	1	1	
大学院博士後期課程	夏季入学試験(2019年7月実施)	12	12	0	0	0	3*
	冬季入学試験(2019年11月実施)			2	2	2	
	外国人(海外在住)(2019年度内実施)			1	1	1	

※2019年10月入学含む

FILE-01 イベント開催

第9回スマートビークル研究センターシンポジウム開催(10/24)

「スマートビークル研究センター」(センター長:佐々木裕教授)は、本学の次世代構想具体化の一環として設立され、車の安全や環境保全を目的とし、人工知能による画像認識、自動運転などの研究を産学共同・国際共同体制で推進している。今回のシンポジウムには73名が参加。招待講演として馬路徹氏(NVIDIA社 技術顧問兼GPUエバンジェリスト)ならびに河村篤男教授(横浜国立大学)を招き、スマートビークルのための深層学習技術と電気自動車のためのモータ制御技術の動向について講演。そのほか、センターの活動状況の報告を行った。



横浜国立大学教授 河村篤男氏

FILE-02 イベント開催

第12回スマートエネルギー技術研究センターシンポジウム開催(11/21)

「スマートエネルギー技術研究センター」は未来を担うクリーンなエネルギーと環境科学技術の創製に貢献することを使命とし、2012年度に豊田工業大学の附属研究センターとして発足。今回のシンポジウムには、130名が参加。大下祥雄センター長から概況説明、構成メンバーによる研究成果発表などが行われた。また、石塚博昭氏(新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)理事長)および渡部浩康氏(トヨタ自動車未来創生センターS-フロンティア部 部長)による招待講演などが行われた。



NEDO理事長 石塚博昭氏

FILE-03 イベント開催

「第15回ジョイントCS(情報科学)セミナー」を開催(12/5)

「ジョイントCSセミナー」は情報科学の最先端のテーマを選び、我が国の代表的な研究者および豊田工業大学シカゴ校(TTIC)の研究者を講師に招き、毎年開催している。今年は「人工知能の生命物質分野への応用」をテーマに、人工知能技術が、生命物質分野およびヘルスケア分野においてどのように応用されているかについての最先端の動向についてご講演、学内・学外合わせて70名が参加した。

招待講演者	津田 宏治 氏	東京大学 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 教授
	工藤 道治 氏	日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 シニア・テクニカル・スタッフ・メンバー
講演者	Michael Yu 氏	Toyota Technological Institute at Chicago 研究助教



TTIC研究助教 Michael Yu氏

FILE-04 イベント開催

南山大学との連携講演会開催(12/8)

南山大学キャンパスにおいて、毎年恒例となる両学による連携講演会が行われた。今年のテーマは「『ヒトの動き』における工学とスポーツ科学の接点について」。本学からは知能情報メディア研究室の浮田教授が「カメラによるヒトの動きの解析とその応用～生活の質向上に向けた応用例～」をテーマに、ヒトの自然な動きを画像でとらえ、深層学習(Deep Learning)を用いて、その精度を高めることを目標にしている研究の今を解説。南山大学の飯田講師からはパイ

オメカニクス(生体力学)の観点から、画像認識技術のスポーツ現場での活用事例についてご講義いただいた。



浮田宗伯教授

講演1	浮田 宗伯 教授	本学 工学部知能情報メディア研究室
講演2	飯田 祥明 講師	南山大学 体育教育センター・理工学部機械電子制御工学科

FILE-05 イベント開催

2019年度「企業向けオープンラボ」を開催(12/19)

「企業向けオープンラボ」は本学の研究活動状況および研究成果を広く紹介し、産業界との研究交流を深めることを目的とし毎年実施している。今回は97名(51社)が参加。各研究室を開放し、教員による研究紹介や設備・装置などの

見学および研究成果に関するポスターセッションなどが行われ、本学の研究活動の発信を行った。参加者からは「関連技術を見つけることができた」「珍しいサンプルを見ることができた」「課題解決の糸口となった」などの声が上がった。



研究室での装置見学の様子

FILE-06 教育活動

修士高度教養科目「科学・技術と人間・社会」第4～6回講義開催

「科学・技術と人間・社会」第4～6回講義開催。学界や産業界など優れた貢献をされてこられた方々を講師としてお招きし、人間や社会に関し理解を深め、科学・技術と社会の関わりを考える機会を与えることを目指すこの講義。今回は右記の方々をお招きし、それぞれのテーマについて講義を行った。



名古屋大学教授 福和伸夫氏

第4回 10/10	名古屋市立大学 学長 郡健二郎 氏	科学を楽しく 究めるために
第5回 11/21	名古屋大学 減災連携研究センター 教授・センター長 福和伸夫 氏	南海トラフ地震の 被害は過去に 比べ減らされるか
第6回 1/9	ザインエレクトロニクス株式会社 代表取締役会長 飯塚哲哉 氏	日本の競争力: ベンチャー創業と 挑戦の体験から考える

FILE-07 教育活動

創造性開発セミナー競技会(12/6)

「創造性開発セミナー」の集大成として競技会が行われた。主専攻(機械/電子/情報/物質)の異なる6名からなるチームで力を合わせ、レゴブロックや3Dプリンタで作製した部品に、センサやモータなどを組み合わせた

装置を製作。装置には3色のビー玉を指定の配列に並べるようにプログラムを組み込み、規定通りに収まったビー玉の個数やタイムを競いあった。使用可能な材料にも制限があり、チーム全員で創造性を十分に働かせる必要がある。表彰された上位チームとは別にユニークな機構にチャレンジしたチームへアイデア賞が贈られるなど、今年も大いに盛りあがった。



優勝チーム

競技の様子

FILE-08 大学運営

名古屋市天白区と災害時の施設使用協力に関する協定を締結(2/28)

本学が所在する名古屋市天白区役所と「大規模災害時等における施設使用の協力に関する協定」を締結。災害時、天白区役所庁舎やその施設に重大な支障が生じた場合、本学の施設や設備を活動の拠点として提供することを決めた。標高68.5mの高台にある比較的災害に強い立地であることを利用し、区の本部機能を補完できるよう準備を整えるなど、災害時に区の活動をサポートできる協体制を整えた。



渡部智恵子区長と本学 増田義彦理事長

FILE-09 その他

榊 裕之前学長が日本学士院会員に選出される(12/13)

榊 裕之 本学前学長(現 学校法人トヨタ学園常務理事)が日本学士院の新会員に選出された。半導体の超薄膜、量子細線・量子ドット構造における電子の量子効果とその素子応用の研究、とくに量子細線FET、量子ドットレーザー、量子ドット光検出器の発明などにより、ナノエレクトロニクスの発展に先駆的に貢献してきたことにより選出された。



榊裕之常務理事

受賞

学内

豊田奨学基金 研究賞

研究進歩賞

優れた研究を活発に進めて注目すべき成果を達成し、さらに大きな発展が期待できる研究に対し、その顕彰と奨励を目的として授与する。

受賞者	研究業績・テーマ
山方 啓准教授 (量子界面物性研究室)	時間分解分光測定を利用した光触媒反応機構の解明

研究奨励賞

将来の進展が大いに期待される萌芽的研究を行った教員およびポストドクトラル(PD)研究員に対し、さらなる研究推進の奨励を目的として授与する。

受賞者	研究業績・テーマ
南部 統一郎 助教 (材料プロセス研究室)	粒子衝突を利用した新たな表面改質処理の創出



豊田奨学基金賞

学業成績・人物ともに特に優秀な学生に授与する。

受賞者	研究室名
梅村 元稀(一宮高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
平田 圭佑(暁高等学校[三重県]出身)	エネルギー材料研究室

派遣企業の会 社会人学生優秀賞

勉学・研究に励んできた優秀な社会人学生に授与する。(今年度新設)

受賞者	研究室名
松本 拓哉 (トヨタ自動車/科学技術学園高等学校[東京都]出身)	知能情報メディア研究室



英語優秀賞

卒業判定の時点で、英語Step-Up Point (E-SUP) 制度への取り組みにより獲得したポイントが上位の学生に授与する。

受賞名	受賞者	E-SUP ポイント	研究室
英語最優秀賞	青木 誠吾(豊田工業高等専門学校[愛知県]出身)	752	固体力学研究室
英語優秀賞	茂里 憲之(中村高等学校[愛知県]出身)	719	知能数理研究室
	Thongpramoon Pongsanit (TRIAM UDOM SUKSA School[タイ・バンコク]出身)	558	設計工学研究室



※英語Step-Up Point (E-SUP) 制度…入学から卒業まで継続的に英語を学ぶことを狙った本学独自の制度。TOEIC L&R IPへの取り組みをはじめ、各種英語イベントへの参加などを通じてポイントを獲得する。なお、卒業要件は100ポイント以上取得、卒業生の平均は190ポイント。

学外

各学会から、人格・学業ともに優秀であると認められた者に授与された。

受賞名	受賞者	研究室
日本機械学会富山賞(学部)	梅村 元稀(一宮高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
日本機械学会三浦賞(修士)	増田 和之(大垣北高等学校[岐阜県]出身)	固体力学研究室
精密工学会東海支部学生優秀賞	藤岡 みなみ(名城大学附属高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
自動車技術会大学院研究奨励賞	加藤 匠(桑名高等学校[三重県]出身)	固体力学研究室
計測自動制御学会中部支部賞 学業優秀賞	茂里 憲之(中村高等学校[愛知県]出身)	知能数理研究室
電気学会東海支部長賞	松本 拓哉(科学技術学園高等学校[東京都]出身)	知能情報メディア研究室

人事紹介

新任



数理物理学研究室 富沢 真也 教授

2008年4月 高エネルギー加速器研究機構
素粒子原子核研究所 研究員
2012年4月 茨城大学 准教授
2014年4月 東京工科大学 准教授
2020年4月 本学教授に着任

主な研究分野

一般相対性理論の基礎方程式であるアインシュタイン方程式のブラックホール解を構成し、その安定性や一意性などの数理的研究をしています。特に、空間次元が3よりも大きな高次元理論において新たなブラックホール解を求め、超重力理論、超弦理論の検証や新たな宇宙物理現象の予言を目指しています。

新任



一般教育分野 (教養:社会・人文)

江口 建 教授

2012年9月 本学 非常勤講師
2014年2月 東京大学 特任研究員
2016年4月 帝京大学 専任講師
2020年4月 本学教授に着任

主な研究分野

20世紀初頭のドイツで成立した「現象学」の研究からスタートし、自我と時間の関係をめぐる専門的研究で博士号を取得したあと、禅僧・道元が唱道した「食の哲学」の教育的意義や、1970年代にアメリカの学校教育プログラムとして開発された「哲学対話」の手法などを研究してきました。ここ数年は、哲学対話の実践と学校教育への導入を試みています。

新任



電子デバイス研究室 Yuwei ZHANG 助教

2015年1月 本学 PD研究員
2017年10月 ルンド大学 PD研究員
2020年1月 本学助教に着任

主な研究分野

My research is toward epitaxial growth, processing and characterization of III-V compound semiconductor nanostructures. I have been working on quantum well, quantum dot, and nanowire based optical and electric devices. I am interested in the understanding of material properties and well as the development of applied structures.

定年退職



高野 健一 教授

一般教育分野(工学基礎)および物質工学分野(物性理論研究室)の高野健一教授が2020年3月31日付で定年退職を迎え、4月1日付で特任教授に就任した。1991年に助教として本学に赴任、2007年准教授、2015年教授に就任。研究分野は物性理論、統計物

理学。微分積分学、複素関数論、解析力学、量子力学などに関わる科目を担当。学生指導には定評があり、基礎に重点を置く本学の教育において、カリキュラムの導入部分でも学生の基礎学力向上に尽力された。

任期満了

2020年3月31日付で下記の教員が任期満了となります。

竹内 秀夫 特任教授
高野 孝義 特任准教授
※2020年4月1日より特任非常勤講師
山口 真史 シニア研究スカラー
三田 誠一 シニア研究スカラー

訃報



岡本 一雄 評議員

去る12月9日に、岡本一雄評議員(元トヨタ自動車副社長、元日野自動車会長)がご病気のため急逝されました。岡本評議員には、2011年6月より3期8年半余りの長きにわたり、本学園の運営に多大なご協力とご指導を賜りました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

新キャンパス
NEWS

期待だった
テニスコートが
完成しました!



📷 テニスコートがオープン

期待だったテニスコートが完成し、12月15日に完成セレモニーが行われた。

足腰にやさしいとされるオムニコート2面からなり、照明完備で夜間の使用も可能となっている。セレモニーでは、増田理事長、保立学長をはじめ、教員、学生・職員同好会代表によるテープカットを行った後、ゲストとしてお招きしました。トヨタ自動車硬式テニス部の皆様による、テニスレッスンが行われ、真新しいコートの感触を確かめた。



トヨタ自動車硬式テニス部の皆様によるテニスレッスン

📷 豊田工大サインおよび大時計が
ライトアップ

新年度を迎えた4月1日、南棟屋上豊田工大サインおよび大時計のライトアップが始まった。点灯時間は毎日、日の入りから22時まで、500m離れたところからでも文字盤をはっきり読むことができ、地域のランドマークとなった。



戸笠公園から見た大時計のライトアップ

📷 いよいよ今年の夏に完成!
キャンパスリニューアル工事 完成間近

7月の竣工に向け、中央棟の建設が順調に進められている。3月のある日、シートで覆われていた一部が外され、350席収容大ホールの外観を窺うことができた。30面体のレンガ風建築が重厚感と躍動感を両立させている。



佐吉翁像が見守る中、中央棟の建設が順調に進む

編集後記

新型コロナウイルス感染症による影響を受け、本学でも卒業・修了式および入学式などが取りやめとなりました。困難な時期ですが、春は変わらず訪れ、新たな門出を迎える皆さんにエールを送るように、真新しいキャンパスに植えられた若い桜の木も、力強く一斉に花を咲かせていました。

